209

尼崎市での一日推定食塩摂取量の動向

○北原 正大、岡田 千里、原嶋 一幸

株式会社 LSI メディエンス 西日本推進部 関西ラボラトリー

【はじめに】

食塩の過剰摂取と高血圧との関連が明らかにされ、過剰な食塩摂取は腎、高血圧疾患の重大な危険因子の一つとして認知されている。当施設では尼崎市市内での委託検査を実施しており、2014年9月より尿生化学での一日推定食塩摂取量の検査を実施している。今回、尼崎市市内の一日推定食塩摂取量の動向を検討した。

【対象および方法】

2016年6月～2018年5月の期間で6162件(男性2615名、女性3497名)を用いた。測定機器は日本電子 BM2250を用い、尿中のNa、CREを測定し一日推定食塩摂取量に換算した。換算式は日本高血圧学会推奨の食塩摂取量推算計算式を用いた。目標値は(男性8.0g/日未満、女性7.0g/日未満)。

【結果および考察】

出件数は月平均約220件であった。尼崎市市内と全国との平均値を比較したところ全国は総平均10.0、男性11.0、女性9.2で尼崎は総平均9.1、男性9.3、女性8.8と男女共に全国平均を下回っていた。年齢別で平均値を比較したところ20～30才代で9～11、50～60才代で9.0～9.5、80才以降

は8.1～8.9と加齢とともに減少していた。次に月別に平均値を比較したところ男女とも8、9月頃に最低値(8.3)となり11、12月頃に最高値(9.5)と周期的な変動が見られた。3ヶ月毎(春:3～5月 夏:6～8月 秋:9～11月 冬:12～2月)の季節別比較すると夏はいずれの季節においても有意差を認めた。(有意差 $p < 0.05$)。

尼崎市では減塩対策について一般の方々に講習会等を開催し健康増進に取り組んでいる。尼崎市で行われている減塩教室の受講者について受講前、受講2週間後のデータが得られた6例についてデータ変動をみたところ、平均で8.1が6.8と低下しており、最高変動例は10.7が6.5、最低変動例は7.4が7.2であった。全例で受講後は低下しており講習会等の活動効果が表れていると推察された。

【まとめ】

尼崎市市内での1日推定食塩摂取量は男女ともに全国平均より低値であった。尼崎市全体での減塩への取り組みや市民一人一人の意識の高さが減塩効果を及ぼしていると考えられる。このようなデータを市民に還元し健康増進に寄りたいと考えている。 <<連絡先 06(6426)6360>>